

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和4年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標				事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
					項目	R03現状	(R04目標) R04現状	R07目標			
1 社会を生き抜く力の育成	①学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む教育	1 基礎学力定着のための環境整備	・「GIGAスクール構想」を踏まえ、今後のICT機器の導入・更新の年度整備計画を策定する。	「GIGAスクール構想」を踏まえた今後のICT機器の導入・更新の年度整備計画を策定する予定であったが、策定に向けての取り組みとして、アンケートの実施にとどまった。	ICT環境整備計画策定・実施	未策定	(実施・見直し) 未策定アンケートのみ実施	実施・見直し	C 課題あり	「GIGAスクール構想」や「美郷町ICT教育推進ビジョン」を踏まえ、美郷町らしいICT教育の在り方を検討する。町内4校と連携し、計画策定を進めていく。	
		2 「個別最適な学び」のための教員の授業力向上	・学力育成策について、指導主事が指導助言 ・OJTの推進	教育事務所の訪問指導への同行を実施。学校からの学力育成の訪問要請に応じた指導助言各校の学力育成の取組を把握するとともに、各校の学力育成に関するニーズに応じた支援を行う。	指導主事の(学力育成のための)年間学校訪問回数	8回	(8回) 8回	8回	B 概ね期待どおり	学校からの要請の有無にかかわらず、可能な限り学校訪問を行い、授業改善を図る。各校の学力育成の取組を把握するとともに、各校の学力育成に関するニーズに応じた支援を行う。	
		3 家庭学習の習慣化	・家庭学習時間の確保と内容の充実 ・タブレット端末の家庭学習での活用 ・学習支援館での学習サポート	学習課題の精選、タブレット端末の活用、チャレンジ週間による生活リズムの見直しを実施。6年生についてはR3年度に比べて目標値に近づいているが、読書時間の減少傾向やメディア接触時間の増加傾向が見られる。中学3年生ではR3年度に比べて目標値との差が開き、読書時間も減少傾向である。	平日1時間以上学習している児童の割合(小学校6年生)	40%	(56.0%) 54.5%	65%	B 概ね期待どおり	R3年度に比べて目標値に近づいているが、読書時間の減少傾向やメディア接触時間の増加傾向が見られる。家庭と連携して生活リズムを整えるよう指導していく必要がある。	
				学習支援館利用者だけでなく町内の中学生に対し全国模試受験の促しを実施した。3年生は全員受験としていたものを4年度からは任意としたため、減少の傾向が見られた。	平日1時間以上学習している生徒の割合(中学校3年生)	54.2%	(74.5%) 41.8%	85%	C 課題あり	R3年度に比べて目標値との差が開き、読書時間も減少傾向である。メディア接触時間の増加が原因と思われる。家庭と連携して生活リズムを整えるよう指導していく必要がある。	メディアの接触時間は今後も増加していくと思われる。学習時間に影響を及ぼさないための対策を個別ではなく全体ですすめていく必要がある。
	4 読書活動の推進	・小中学校における読書活動の推進 ・学校・図書館連携による読書活動の推進	目標値は達成しているが前年度から低下傾向が見られる。また、学習時間の増加率と相関関係が見られる。メディア接触が長時間になる生徒の割合が増えている。	平日30分以上読書している児童の割合(小学校6年生)	51.4%	(31.0%) 43.1%	35%	B 概ね期待どおり	メディア接触が長時間になる生徒の割合が増えている。チャレンジ週間等を活用して保護者にも啓発し、家庭と連携して生活リズムを整えていく必要がある。	成果指標の目標値について、令和7年度の目標値も既に超えている。目標値の変更が必要ではないか。	
			平日30分以上読書している児童の割合(中学校3年生)	37.1%	(31.0%) 32.6%	35.0%	B 概ね期待どおり	メディア接触が長時間になる生徒の割合が増えている。チャレンジ週間等を活用して保護者にも啓発し、家庭と連携して生活リズムを整えていく必要がある。			
	②情報活用能力の育成	5 GIGAスクール構想の推進	・ICT教育推進ビジョンの策定と推進 ・ICTを活用した授業づくり ・オンライン学習のための環境整備とスキル向上 ・プログラミング学習の充実 ・教職員・保護者の情報リテラシー及びICT活用能力の向上	令和3年度に策定した「美郷町ICT教育推進ビジョン」に沿って授業づくり、ICT活用能力の向上を図った。	美郷町ICT活用能力育成計画の策定・実施	策定	(実施・見直し) 実施	実施・見直し	B 概ね期待どおり	年間の実施状況を鑑み、令和5年度については見直し、修正を反映させる予定。	
		6 学校図書館活用教育の推進	・学校司書の配置と学校図書整備	県の「学校司書等による学びのサポート事業」を活用し、学校司書を4名配置している。学修に使用する図書や教室に貸し出す図書の選書や教諭への助言等を行っている。また、学校への登校や教室での学習に困り感を抱える児童・生徒に対し、図書室でサポートを行っている。	学校図書館の資料等を活用した年間授業数(小学校)	55時間	(65時間) 58時間	70時間	B 概ね期待どおり	学校の「情報センター」として学校図書館を調べ学習などで授業に活用し、学校図書館活用教育の充実を図る。	
	③すこやかな心と体の育成	7 実体験活動、道徳教育の推進	・自己肯定感を高め、他者理解を図る道徳教育の推進	学力調査やQ-Uアンケートによる実態把握に基づいた指導の実施、人権教育・理解教育を推進する。	自分にはいいところがあると感じている児童の割合(小学校6年生)	62.8%	(84.0%) 65.9%	90%	C 課題あり	前年度県学力調査で同じ設問と比べると、約6ポイントの上昇が見られるが、児童が自身の良さについて理解を深めていくように理解教育などをさらに進めていく必要がある。	
				自分にはいいところがあると感じている児童の割合(中学校3年生)	80.0%	(69.5%) 74.4%	75.0%	B 概ね期待どおり	県学力調査において同学年の1年時の数値と比べると約9ポイントの伸びが見られた。全体としての自己肯定感には向上が見られるが、全国・県と比較するとやや下回る。現在の取組を継続し、さらに自身の良さについて理解を深めていく。		
8 学校・家庭・地域連携で体力向上、健康の増進		・保小中家庭が連携して運動意欲や体力向上 ・公民館や地域のイベントを通じて地域で健康増進、子どもたちの体力向上	授業前のトレーニング、記録カードの活用 運動量を確保した体育授業の実践 児童の委員会活動による体力向上の集会	全国体力・運動能力調査における体力合計点(小学校5年生)	55.4点	(58点) 54.5点	60点	C 課題あり	町全体の傾向として50m走の得点の低さが見られる。その他の種目については、学校間で差が見られる。R7の目標値60点を達成するためには、各校の課題に応じた体力向上の取組を継続するとともに、町全体の課題として走力向上に取り組む必要がある。	学校以外での外遊びの減少や、近隣で同年代の児童生徒がいない環境、スクールバスが運行することによる歩く機会の少なさなど、複合的な要因が考えられる。目標値の見直しも視野に、取り組みが必要と考える。	
			授業前のトレーニング マラソン大会等の実施 生徒会主催のスポーツ大会	全国体力・運動能力調査における体力合計点(中学校2年生)	45点	(43点) 39.6点	50点	B 概ね期待どおり	種目ごとに差はあるが、全体的に邑智中の得点が高い傾向が見られる。全体として持久力に関する種目の得点が県・全国平均を下回っている。各校で持久力向上の取組を継続していく必要がある。		
9 いじめや不登校が起きない学校づくり	・望ましい学級集団づくり、いじめの早期発見適切な対応 ・SCやSSWと連携して不登校対策	各校での職員間の共通理解を初め、校内研修、道徳や学級活動における指導、相談体制の充実、いじめ防止基本方針の点検と見直しをし、組織的に対応している。	いじめの認知件数のうち、解消したものの割合	85.7%	(94.0%) 78.9%	100.0%	B 概ね期待どおり	小学校において特定の児童による暴力行為の繰り返しの実態が読み取れ、児童の実態、特性を把握し、適切な指導・支援を検討していく必要がある。			
10 就学援助の充実	・就学援助制度の周知	町内小・中4校の就学時健診時、1日入学時、保護者に向けて説明した。また、大和地域と浜原地域の民生児童委員協議会開催時に制度を説明した。	就学援助制度の年間周知回数(新規)	4回	(4回) 6回	6回	B 概ね期待どおり	コロナ禍により開催が出来ていなかった民生児童委員が集まる会議で制度説明ができたことにより、周知の機会が増加した。広報での取り扱いがなかったため、今後は課内、企画推進課と協議しながら掲載を検討する。			

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和4年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標				事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
					項目	R03現状	(R04目標) R04現状	R07目標			
④個性や主体性・多様性を活かし伸ばす教育	11	インクルーシブ教育の強化	・子どもたちの特性や背景を理解する方法や能力を高める研修の実施	美郷町特別支援連携協議会を機能させた研修会、勉強会、講演会などの開催	特別支援教育に関する研修会の実施	未実施	(1回) 未実施	1回	C 課題あり	郡の合同連絡会等では県下の動きなど鮮度の高い情報提供が出ているが、学校全体への波及は出来ていない。昨年度の状況を踏まえ、健康福祉課との連絡会を定期実施することとなった。連携に向けての土台作りとして体制は整えられる。	
				専門家による支援チームにより定期開催される相談会のアナウンスを行う。チラシの送付、IP告知放送の実施	教育相談会の年間周知回数	11回	(12回) 11回	15回	B 概ね期待どおり	年間の定期相談に沿って保護者から予約が入るため、次月にはすでに予定が埋まっていることがあり、IP告知放送に至らない状況があった。令和5年度は祝日の関係もあり相談会が1回分少ない状況。相談依頼を確実に実施し、保護者、児童生徒本人、学校の悩み部分に寄り添う会の開催が必要となる。また、教育における町の取り組みの一つとして、広報を用いて事業内容の発信機会を設ける。	
	12	異文化への関心を高め、国際感覚を醸成	・英語助手や国際交流員の学校・地域での活用 ・オンライン英会話教室等、英語教育の充実	全国学力調査に伴う調査での設問で語る。R4年度全国学力・学習状況調査に該当する設問がなく実態が不明である	英語の勉強が好きだという児童の割合(小学校6年生)	74.3%	(62.0%) 設問なし	70.0%	B 概ね期待どおり	全国学力調査に伴う調査での設問ではかる。R4年度全国学力・学習状況調査に該当する設問がなく実態不明となった。(参考: R5年度調査結果は、56.7%)	
				全国学力調査に伴う調査での設問で語る。R4年度全国学力・学習状況調査に該当する設問がなく実態が不明である	英語の勉強が好きだという児童の割合(中学校3年生)	31.4%	(55.5%) 設問なし	60.0%	B 概ね期待どおり	全国学力調査に伴う調査での設問ではかる。R4年度全国学力・学習状況調査に該当する設問がなく実態不明となった。(参考: R5年度調査結果は、40.0%)	

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和4年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標			事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
					項目	R03現状	(R04目標) R04現状			
2 未来を担う 人材の育成	①美郷町への 愛着と理解	13 学校の学びと地域社会のつながりを感じて主体的に学ぼうとする取り組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館ふるさと教育の推進 ・地域資源を有効に活用した体験学習の展開 ・保小中12年間のふるさと教育の体系化・系統化 ・学校給食における地場産品の活用と食育 	<p>沢谷公民館では長期休業中に子ども対象の季節行事を地域ボランティアとともに開催。また各公民館で、大人対象の講座において、ふるさとを再発見する機会を設けた。</p>	公民館ふるさと教育の実施回数	12回	(24回) 24回	32回	B 概ね期待どおり	学校との連携が課題である。学校が行うふるさと教育を発展、補充、深化する活動が効果的である。各種連絡会議に参加することで、活動内容について協議していく。
				<p>学校教育におけるふるさと教育、キャリア教育の充実を図った。多世代対話活動「みさとーく」を実施することで地域の大人と出会う場を設定し、自分自身の生き方と地域の未来を考える機会をもった。</p>	将来美郷町に住みたい(帰ってきたい)と答えた生徒の割合(中学校3年生)	62.0%	(50%) 64%	80.0%	B 概ね期待どおり	R7の目標値80%を達成するためには、ふるさと教育や多世代対話活動等とおして、地域に対する理解や貢献意欲を一層育てていく必要がある。
		14 地域づくりを担う人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代対話活動により、自分自身の生き方を考えたり、地域とつながる機会の充実 ・地域課題解決に取り組む実践者の育成 ・地域住民参画型の公民館活動の実施 	<p>キャリア教育の実践 総合的な学習での職場体験学習などを実施</p>	「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合(中学校3年生)	57.2%	(70.0%) 62.9%	80.0%	C 課題あり	新型コロナウイルスの5類移行等により、町外の企業への体験が可能になった。生徒の希望に沿ったキャリア教育・体験学習を実施していくことが必要である。
				<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と高校生 邑智小参加者(9人) 大和小参加者(9人) ・中学生と地域の大人 邑智中参加者(17人) 大和中参加者(10人) 	小中学校における(美郷版カタリ場)に参加した大人(高校生以上)の人数	23人	(30人) 45人	50人	B 概ね期待どおり	大人との対話活動により、自分の将来の夢や目標について考えたり、自分を振り返ったりするよい機会になっていることがアンケートにより見て取れる。R5より中学生の活動に対する予算措置がなされていないため、実施方法について検討が必要である。
				<p>地域課題(防災、つながりづくり、獣害対策等)の解決に向けた事業を通して、実践者の育成を図った。</p>	公民館の「地域課題解決学習」の実施回数	10回	(12回) 8回	16回	C 課題あり	参加者の課題に対する意識が向上しているが、地域課題に対する住民の熟識が必要。地域課題解決プログラム等を活用してその機会を設定する。
		15 文化財の価値づけと維持保存、次世代への継承	<ul style="list-style-type: none"> ・石見銀山街道国史跡追加登録を目指す取り組み ・町内出身の作家作品など文化財の保存・活用 ・文化施設の利活用と文化振興 	<p>12月までに調査を取りまとめ、2月に申請を行う予定であったが、文化庁の京都移転に伴い、申請受付が次年度に繰越となった。</p>	文化財登録件数	17件	(20件) 17件	25件	C 課題あり	令和5年度6月期申請に合せ、申請の準備を行う。登録決定後の保存活用について所有者の意向も踏まえて検討していく。
	<p>校長会等で実施の呼びかけを行ったが、要望がなかった。</p>			石見銀山街道を学ぶ学校数	0校	(3校) 0校	4校 (全校)	C 課題あり	コロナ禍の影響で現地を歩く取り組みができなかった一面がある。今年度は教職員への働きかけが必要。	
	<p>実施の呼びかけを行ったが、要望がなかった。</p>			石見銀山街道を始めとする町の歴史を学ぶ公民館数	2館	(3館) 0館	9館	C 課題あり	ワークショップで地域文化財の状況を把握した。身近な歴史を学ぶ講座メニューの提案を検討。	
	<p>課内で調査内容の報告書類を回覧した。</p>			古文書解読による町の歴史調査をまとめる取組	0回	(1回) 1回	1回	B 概ね期待どおり	古文書を読む会にテキストを提供、調査結果をフィードバックしている。発表の場を設け、より多くの人に伝える努力をする。	
	<p>小中学校については大和小学校3、4年生総合学習の時間に実施。作家の生涯と作品を紹介した。公民館については講座に取り組む公民館がなかった。</p>			中原芳煙を題材とした活動の実施学校数	0校	(3校) 1校	4校 (全校)	C 課題あり	実施学年の児童のほぼ全員が令和3年度に製作した伝記マンガを読んでいた。事前に基礎的な知識を身につけた上で授業を行う事ができたので、より詳細な内容を理解することができた。マンガ制作により、これまで以上に深い内容の授業が可能となった。今後はいかに他校へ取り組みを拡大させていく事が課題となる。授業実施の呼びかけの継続や教職員研修等で取り上げてもらうような働きかけをする。	
	<p>中原芳煙を題材とした活動の実施公民館数</p>			中原芳煙を題材とした活動の実施公民館数	0館	(3館) 0館	9館	C 課題あり	中原家住宅の登録有形文化財認定を良い機会として芳煙の魅力を伝える催しを検討する。	
	②人権意識、生命の尊重	16 人権問題に関する学習機会の提供と差別をなくす実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・機関・団体のネットワーク強化 ・研修会や人権の集いを通じて幅広い年齢層へ人権啓発 ・部落差別解消への啓発活動推進 ・感染症に対する正しい知識の普及啓発と偏見差別防止 	<p>町同推協講演会(5回) 公民館人権講演会・学習会(13回)</p>	人権・同和教育に関する研修会の年間開催数	10回	(15回) 18回	17回	B 概ね期待どおり	各公民館での講演・学習会が定着し、町内全域で開催できている。講演会への参加者が少なかったり決まった人だったりすることが課題。内容など検討する必要がある。
				<p>連絡会議(6回)を開催し、町同推協講演会への参加(5回)、町教委と公民館共催研修会への参加(1回)ができた。内1回は啓発事業であるほっとあっと広場として開催した。</p>	人権・同和教育推進者連絡会議の年間開催数	9回	(12回) 10回	12回	B 概ね期待どおり	連絡会議には、各所属から1名、毎回約15名が参加し、情報交換、人権啓発についての議論ができている。
		17 進路保障の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路保障連絡会の開催と進路保障の視点に基づいた取り組み支援 ・学校と地域が連携した進路保障の取組の推進 ・進路保障の視点に基づいた小中学校の取り組み支援 	<p>町同推協にて「子どもの人権」をテーマに講演会を開催し、町人権同和教育連絡会議にて学習会(2回)を行った。</p>	「子どもの人権」を取り上げた研修会・学習会等の実施回数	1回	(2回) 3回	5回	B 概ね期待どおり	町人権同和教育連絡会議は保育所、学校、公民館など関係機関からの参加によって開催しているので、最近の子どもの様子について情報交換ができている。各地域での人権学習では「子どもの人権」をテーマにとりあげていない。公民館での人権学習会で「子どもの人権」をとりあげることで、地域で子どものことを考える機会になる。
				<p>人権・同和教育を根底にすえ、日常の全ての活動において、お互いをありのままに受け止め、認め合い助け合うことを大切にいく視点を持って活動を推進した</p>	「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(小学校6年生)	88.5%	(88.5%) 95.5%	90.0%	B 概ね期待どおり	学級運営、学習などあらゆる場面で児童の人間関係づくりに視点を置いた取組を行う。
	18 多様性を認め合い、障害がある人となない人とが分け隔たられず、共に学ぶ機会を保障するインクルーシブ教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性が認められる学校・地域づくり ・新型コロナウイルス感染関連差別の防止 	<p>「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(中学校3年生)</p>	「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(中学校3年生)	88.5%	(95%) 81.4%	97.0%	C 課題あり	学級運営、学習などあらゆる場面で生徒の人間関係づくりに視点を置いた取組を行う。	

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和4年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標			事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見	
					項目	R03現状	(R04目標) R04現状				R07目標
3 学校、家庭、 地域の連携・協働による 教育環境の充実	①地域の力を活かした 学校づくりの推進	19 地域全体で学校を支援する体制の整備	・学校運営協議会の設置と機能充実 ・ふるさと教育等、異校種間の連携	学校運営協議会設置のための推進会議や研修会を開催した。令和5年度から学校運営協議会設置予定	学校運営協議会を設置している学校(コミュニティスクール)の数	0校	(0校) 0校	4校 (全校)	B 概ね期待どおり	学校の負担感を増すことなく、地域と学校が共働できる仕組みを作っていくことが必要である。	
				小中連携の活動を2回企画していた。新型コロナウイルスの感染拡大により中止。	異校種間の連携、保・小・中・高・大と一緒にする活動(授業)の実施回数	2回	(10回) 2回	14回	C 課題あり	接続校間の活動は比較的实施しやすいが、そうでない場合(特に高校・大学)は実施が難しい。高校・大学との連携した活動を実施することが課題となる。	
		20 地域学校協働活動への地域住民の参加・参画	・地域学校協働活動への参加促進 ・地域人材の発掘と活用及び公民館連携の推進	ふるさと教育を中心に、実施するにあたり、学校と地域が事前に打ち合わせを行った。 邑智地域16回 大和地域13回	学校と地域住民が協働した(事前協議や振り返りを一緒に行う)活動の実施回数	25回	(27回) 29回	33回	B 概ね期待どおり	地域学校支援コーディネーターの調整により、事前打ち合わせが継続的に行われるようになっている。活動の改善のため、事後の振り返りの充実が課題である。	
				ふるさと教育を中心に、地域住民と講師を務めたり、ボランティアとして活動に参加したりした。 邑智地域213人 大和地域269人	学校支援に関わった地域住民の人数	160人	(185人) 243人	200人	A 期待どおり	事前の打ち合わせなどにより、学校と地域で目的の共有が進み、目標に迫る活動が実施されている。多様な地域住民の参加、参画を進めること。	成果指標の目標値について、令和7年度の目標値も既に大枠を超えている。目標値の変更が必要ではないか。
	②子どもを中心に据えた 地域づくりの推進	21 地域学校協働活動(放課後支援)への地域住民の参画	・放課後子ども教室の企画運営に保護者や地域住民が参画 ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携	各児童クラブにおいて地域事業所のスタッフが講師となり竹とんぼづくりを開催した。	放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動に地域住民がスタッフとして運営に携わった活動の実施回数	0回	(2回) 3回	4回	B 概ね期待どおり	今回は道具の準備が不要の簡単なキットで竹とんぼを作成したが、子どもたちの経験のために、道具を使って最初から竹とんぼを作成することも検討していく。子ども教室でも地域住民がスタッフとして携わる事業実施が必要である。	
				町内保育所での「親学プログラム」実施、「家族でたき火体験」の企画。「親学プログラム」は実施できたが、「家族でたき火体験」は悪天候のため中止となった。	保護者を対象とした家庭教育に関する研修会、学習会等の実施回数	1回	(2回) 1回	4回	B 概ね期待どおり	地域の子育て経験者や民生委員・児童委員など、身近な方々による家庭教育支援チームを組織し、地域とのコミュニケーションや学習機会等を得ることができない保護者や家庭に対する支援を講じていく必要がある。	
		23 学校を核とした地域づくりを目指した、学校・家庭・地域のネットワーク強化	・地域学校協働本部を整備し、学校運営協議会と連携・協働を促進 ・コーディネーター、社会教育士の養成	地域学校支援コーディネーターが学校や地域の要望を受け、活動のマッチングを行っている。これにより、ネットワークの強化が図られている。 邑智地域58件 大和地域25件	大和、邑智それぞれの地域学校協働ネットワークへの参加団体(個人)数	82件	(90件) 83件	96件	B 概ね期待どおり	学校と地域の情報共有が進み、新たな活動が始まるなど成果が上がっている。学校と地域の線的なつながりから地域全体の面的なネットワークの充実を図っていく。	
				公民館における多世代交流の充実 ・他部局(福祉、地域振興)、社会による教育施設、福祉施設・団体、自治会等の連携事業の充実により、多様な人々が交流する機会を設定	公民館の多世代交流事業の実施回数	6回	(4回) 8回	9回	B 概ね期待どおり	子ども中心の地域行事が定着することで、子どもも地域住民も楽しみや、やりがいを感じる。子どもから高齢者まで、多世代の地域住民の交流、つながる場を、内容を工夫し意図的に設定する必要がある。	
	③自主的・主体的な学 の支援	25 地域住民が主体的に学べる学習環境を整備し、住民の生きがいづくり、仲間づくりを支援	・公民館講座の開講と学習成果発表の機会を提供 ・美郷大学の開催	教養講座での学習成果の発表会を開催した。各公民館において、公民館まつりなどの機会に発表会を設定することを想定しているが、未だ感染症拡大予防のため開催できなかった。	公民館の学習成果の発表や展示会等の実施数	1館	(5館) 1館	9館	C 課題あり	作品などは各館に掲示、展示し、誰でも鑑賞できるようにしている。学習成果の発表により、満足感や達成感、次の活動への意欲につなげていく。評価が感じとれる工夫が必要である。	
				26 町立図書館「みさと本の森」の機能充実	・移動図書館事業の充実 ・公民館と連携してブックカフェを開催 ・図書ボランティアや子育て支援センターと連携し、親子読書を推進	新型コロナウイルス感染症によって伸びていた一般利用者の貸出は落ち着いたが、学校や福祉施設への移動図書館の再開や移動図書館の実施箇所も増えたことで、貸出数が伸びた。	図書館「みさと本の森」の貸出冊数	50,530冊	(52,400冊) 95,395冊	68,000冊	A 期待どおり
		広報などでの図書館PR。自習学習の場の提供による図書館活用の推進。団体配送や移動図書館先団体へのアプローチ。現状、目標に沿って推移している。	図書館「みさと本の森」の登録者数			1,571人	(1,630人) 1,627人	2,000人	B 概ね期待どおり	口コミによる利用者の増加と図書館環境の向上が増へと繋がった。引き続き、一般・団体に向けて有用性をアピールし、ただ本を借りるだけの場所ではないと言う部分を周知していきたい。	
		巡回を希望する施設を募集した。新型コロナウイルスの影響下で移動図書館を中止していた施設とも慎重に検討を行って再開した。吾郷公民館でのイベント時に移動図書館を行った。	図書館「みさと本の森」の移動図書館拠点施設数			9箇所	(12箇所) 12箇所	15箇所	B 概ね期待どおり	定期的な巡回先だけでなく、長期的なスパンで移動図書館を行える施設を掘り下げていく。より良いサービスを提供するには職員の選考技術とコミュニケーション能力が必要不可欠になっているので、研修に力を入れた成果を今後発揮できるようにしていく。	
26 町立図書館「みさと本の森」の機能充実	・移動図書館事業の充実 ・公民館と連携してブックカフェを開催 ・図書ボランティアや子育て支援センターと連携し、親子読書を推進	町民の需要に即した蔵書構成となるよう、予算内で購入資料の精査に努めた。蔵書の入れ替えについては、新型コロナウイルスが流行する前と比べて寄贈の受け入れ冊数が落ちてきたこと、先年、書庫整理のため寄贈受入れを一旦止めていた影響もあり、数値的には下がったと思う。	図書館「みさと本の森」の蔵書鮮度	6.3%	(11%) 5.9%	15.0%	C 課題あり	利用者の希望する資料がより多様化しているため、県外の図書館にも依頼をし、資料を借り受けて対応している状況である。新しく需要が生まれている分野の資料と、情報が古くなって入れ替える必要がある資料とのバランスを調整しながら蔵書構成を継続して刷新する必要がある。			
		子育て支援センターで季節の読み聞かせや、公民館での大型絵本を用いたお話を積極的に開催した。	親子読書事業の実施回数	3回	(2回) 4回	3回	B 概ね期待どおり	地域のイベントにおいての読み聞かせやお話会の需要が高い。読み聞かせの研修を行ったので、今後は実地による経験をつみ十全なサービスを提供していきたい。図書館ボランティアとの連携も強化し、人員の充実を図りたい。			

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和4年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標				事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
					項目	R03現状	(R04目標) R04現状	R07目標			
		27 スポーツを通じた青少年の健全育成と地域の活力醸成	<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ大会、教室、体験会の開催 指導者の育成とスポーツ少年団活動の活性化 町民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進 2030国民スポーツ大会へ向けた機運の醸成 ジュニア対象カヌー教室の開催とカヌーサポーター制度を整備し、カヌー関係人口の増加を図る 	美郷町体育協会事務局、みさとカヌークラブ、教育委員会は県スポーツ協会と共催でスポレク祭カヌーフエスタを開催した。町体協各競技部は競技の普及を目的とした各種大会を開催することができた。	美郷町体育協会等団体による各種スポーツ大会、教室、体験会等の実施回数	7回	(8回) 8回	10回	B 概ね期待どおり	スポレク祭では昨年と同様、町内外から多くの参加(40名)があり、カヌーを楽しんでもらうことができた。美郷町体育協会の各部が満遍なく大会を開催し、多くのスポーツ種目の普及の一助となった。また、体を動かすことと住民同士のコミュニケーションの機会となっており、心と体の健康増進に寄与している。今後は、多世代間交流や多くの住民が参加できるスポーツイベントを企画することも必要だと考える。カヌーの町づくりを目指し、まずは町民の機運醸成を目的に新たなカヌーイベントを行う必要がある。	
				カヌーの町づくり及びインターハイや国民スポーツ大会島根県大会を見据えてのジュニア育成を目的にカヌー教室を実施する。1回開催することができた。	ジュニアを対象としたカヌー教室の開催数	0回	(1回) 1回	3回	B 概ね期待どおり	美郷町出身の高校生がここ数年ジュニア世界大会に連続して出場するなど、町内から力を持つ選手を輩出している。インターハイ、国民スポーツ大会に向けて地元代表選手を創出するべく、ジュニアの競技レベルを上げていく。競技力を高めることを目的とする教室と、幼少期からカヌーに親しみ、カヌー競技者の増を目的とした教室、多方面からカヌー振興に寄与する活動を行う必要がある。	
				カヌーに関わる人を増やし、2025年インターハイ、2030年の国民スポーツ大会に向けて、大会の成功やカヌーの町づくりとしての地域振興の機運醸成に繋げるためにカヌーサポーターを募集する。	カヌーサポーターの登録人数	58人	(40人) 58人	100人	B 概ね期待どおり	カヌー競技に関わりのある子どもとその保護者においてはカヌー振興に理解が得られているが、一般の町民にとっては未だ浸透してないと思われる。カヌーサポーターの目的、活動内容等詳細について定め、様々な場面で積極的にサポーター募集をしていきたい。	